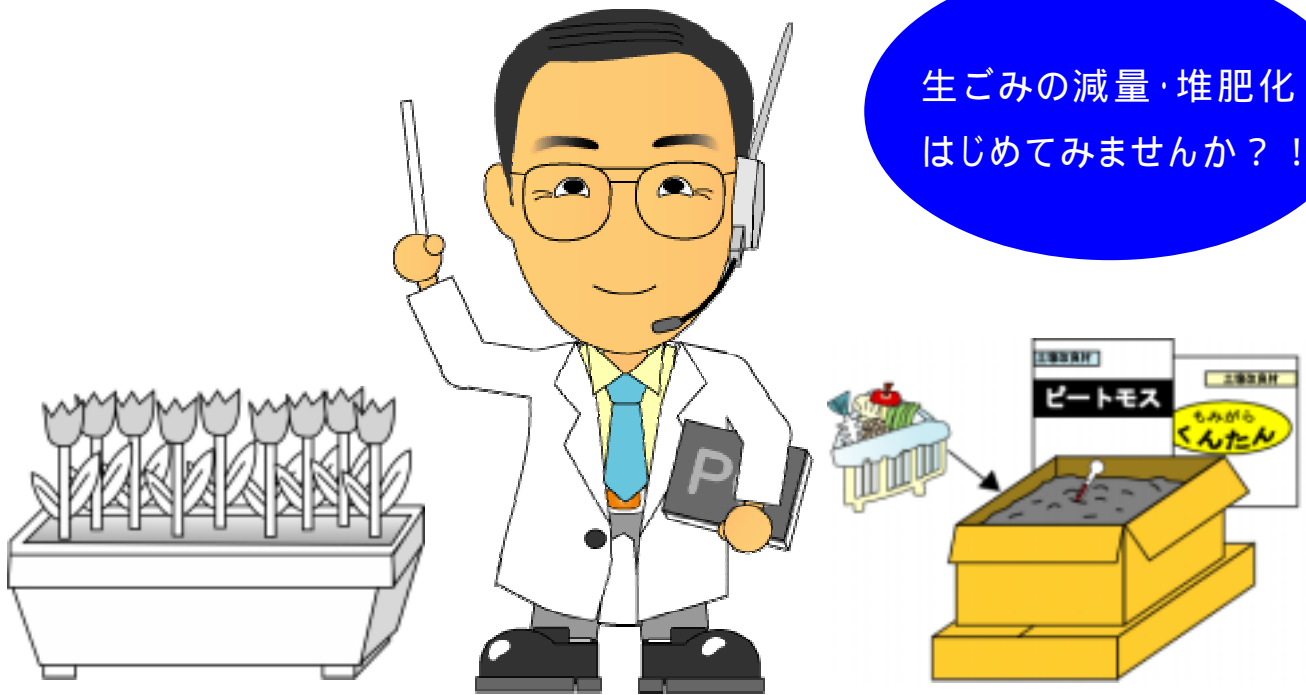


段ボールコンポストマニュアル

「ピートモス」、「もみがらくん炭」を入れた段ボールを利用して、生ごみの減量化・堆肥化に取り組みませんか？生ごみは栄養たっぷり、捨てるにはもったいない、もったいない！

生ごみの減量・堆肥化
はじめてみませんか？！



キャプテンECO

またの名を自称リサイクル博士・タカハシさん

特徴： 特別な容器、機械を購入する必要がありません。

実際にやってみました！ (環境政策課内で)

期間：平成 15 年 8 月 5 日
～ 10 月 20 日

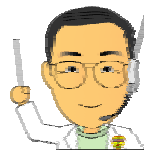
最初の基材の重さ	生ごみの全投入量	終了後の重さ
3.35kg	+ 26.5kg	= 6.2kg

なんと！ 23.65 kg！ 生ごみダイエットに成功

～ 問い合わせ ～ お気軽にお問い合わせください。

八戸市 環境部 環境政策課 実物をご覧いただけますー
電話 43 - 2111 (内線 676 . 677) 別館 4F

STEP 1 用具と基材を準備しましょう



ここでいう、基材とは
ピートモスともみが
らくんたんのことで
す。



用意するもの

(容器)

- ・段ボール箱 2個 (基材入れ用と下敷き用、りんご箱程度の大きさ)
- ・新聞紙 (容器の蓋に使います。)

通気性をよくするためです。じかに床に置くと段ボールがしめって穴があきやすくなります。

段ボールでなくてもビールケースやその他でも代用できます。通気が大事なんです！

(基材)

- ・ピートモス (20L 入り袋一袋の量はお店によって違うかもしれません)
 - ・もみがらくんたん (15L 入り一袋の量はお店によって違うかもしれません)
- ⇒ 金額は二種類で約 1,200 円程度です。

園芸店やホームセンターなどで購入することができます。

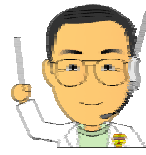
(道具)

- ・ゴム手袋又は、シャベル等 (混ぜるときに使用します。)
- ・温度計 (100℃ 計 生ごみ分解時の温度確認用です。)
- ・はかり (生ごみ計量用です。)

必ず段ボール
を使ってね！



STEP 2 基材に生ごみを混ぜましょう



基材を段ボールに入れます。

「ピートモス」と「もみがらくん炭」を6（15%）：4（10%）の割合で段ボールに入れてよく混ぜます。（投入する生ごみの量が1日平均500gの場合の量です。）

この際、ペットボトルなどを利用すると基材の割合を計りやすいです。

生ごみを入れて、よく混ぜます。混ぜる際は、通気性の良い場所で行いましょう。

【CHECK】

- 次のようなものは、入れてもあまり分解されないようです
 - ・ 卵の殻
 - ・ 魚や肉の骨
 - ・ 貝殻
 - ・ たまねぎの皮
 - ・ レモンなどの柑橘類 など
- 最初の2、3日は、生ごみを多めに入れたほうが分解がはやまります（1kg程度/日）

3 温度計を中心にさし、ふたをします。

【CHECK】

- 生ごみを入れ始めてから、1～2週間で温度が40度近くまで上昇します。入れるものによってはそれ以上に上昇することがあります。



毎日つづ
けよう！



STEP 3 容器を保管しましょう



お部屋の中に段ボールは・・・という方は、通気性のよいお好みの布などかぶせてみるとよいかも！ティーポットのカバーみたいに！

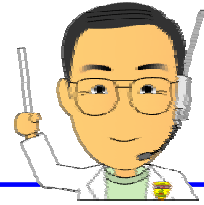
生ごみを混ぜて、蓋をした容器は、温度が約20℃以上の通気性の良い場所で保管します。

【CHECK】

- 生ごみの分解に伴って、段ボールの全面から水分（水蒸気）が出ます。容器の下には、段ボールを、また、上には新聞紙を置くと良いです。なお、ビニール袋などで覆わないでください。
- 保管場所の温度が低い（10℃以下）と微生物が活動せず、分解が進みません。（外気温が高い夏場はネットなどをかけて屋外での使用をおすすめします。）温度が低いと虫がでやすくなります。裏面の注意を良くお読みくださいね！



注意！ よく読んでくださいね！



1. 温度について

- 野菜類が多いとあまり温度が上昇せず、ゆっくりと分解が進みます。
- 肉、魚類を入れると温度が上昇しやすくなります。かなり高温になる場合がありますので、その際は、シャベルなどで混ぜてください。
- **使用済の食用油(コップ1杯程度)や米ぬかを入れると温度が上がります。**

2. 匂いについて

ミントなどのハーブを入れると消臭効果があります。

- 一度に多量の生ごみを入れると、容器内の温度が急に上昇し、かび臭、土臭などが出ることがあります。入れる前に、はかりで重さを計り量を調整してください。
魚の内臓(生)などを入れると、臭いがきつくなります。
⇒ 臭いが気になる場合は、換気の良い場所に移して1~2日置いておくとおさまります。

3. カビ・虫について

- 基材の表面に白カビが生えることがありますが、好気性菌のため無害です。
(そのまま続けられます。)
- 生ごみの投入を4~5日停止し、混ぜるのをやめて放置すると、小バエ、ダニが発生する場合があります。(ダニが出た場合は終了させ、また最初からやりなおしてください。)
~ほぼ毎日生ごみを投入し、しっかり混ぜるようにしてください。~

4. 容器の使用期間等

- 生ごみの投入量により異なりますが、1日平均500gであれば、3ヶ月くらいを目安にしてください。
- 屋外でやる時は、段ボール箱が直接地面につかないよう工夫しましょう。虫除け対策にはネット等を使用し、雨のあたらない場所に保管しましょう。

5. 使用期間終了後の処理

~ 出来た堆肥の使用法 ~

庭や畑など土がある場合・・・堆肥を黒土と混ぜて1ヶ月程度ねかせます。その後は他の堆肥同様に利用できます。
庭や畑など土がない場合・・・通気性を保つために、ふたをせず雨にぬれないところで1ヶ月程度ねかせます。その後は他の堆肥同様に利用できます。

次回のために・・・

- 次回の段ボールコンポストに使用済みの基材※を少し混ぜると、分解が進みやすくなります。
※出来た堆肥ーねかす前のもの。